



発行所
松山市旭町 71
愛媛県立
松山商業高等学校
編集兼発行所
松商文芸・新聞部
印刷 クボタ印刷(株)

才 卒業子
去りし廊下の
長きかな
(谷井紀夫)

愛顔に会いたい 校長 井上伸二



令和六年元日の夕方、能登半島沖を震源とする大地震が、突然私たちに襲ってきました。大きな揺れと津波。隆起した道路や焼失した街並みを映像で確認し、私は大きな衝撃を受けました。令和六年能登半島地震によってお亡くなりになった方へ謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興を心から願っております。

東日本大震災から十三年、西日本豪雨災害から五年半、そして今回の地震。本当に自然の力の大きさを思い知らされるとともに被害に心が痛みます。専門家によれば、近い将来、南海トラフ大地震がかなりの確率で発生するとのこと。万が一の場合に備えて、水や非常食を備蓄しておくことや避難経路を確認しておく必要性について再認識しました。また、日頃から地域の方々と結びつきを深めておくことで、公助が行き渡るまでの間、自助・共助によって困難を乗り越える想定をすることが本場に大切である

と痛感したところです。さて、四年前に突然世界中を恐怖に陥れた新型コロナウイルスの流行によって一変していた学校生活は、ようやく少しずつ日常を取り戻しつつあると感じています。昨年度の修学旅行は、行き先を関西方面に変更し、USJと京都を巡る旅となりました。コロナ禍によって中学校の修学旅行が中止になった生徒の皆さんも多かったと聞き、私も体調に気を付けながらの修学旅行でしたが、保護者の皆さんの御理解もあり、何とか実施することができました。令和5年度は、本場に久しぶりに東京と北海道へ行くことができました。修学旅行を終えた生徒の皆さんの笑顔から、旅行先でのさまざまな活動を楽しみ、数多くの思い出とともに帰ってきたことが分かり、私も安心しました。

運動会は、「桜商満開」のテーマの下、青春の汗を流すことができました。感染症の影響で一旦延期となりましたが、過ぎしやうすい十月の実施となり、準備から演技、片付けまで、各グループリーダーを中心に一致団結して見事なパフォーマンスを披露することができました。また、先輩・後輩の垣根を超えた松商生全体の絆が深まったと感じ大変嬉しく思います。

本校の大きな学校行事である商神祭も、コロナ禍によって入場制限を行わざるを得ない状況が続いていましたが、コロナが感染症法上の5類相当となったことを受け、実際に四年ぶりに地域の方々をお招きして開催することができました。また、日頃から1000日実習や現場実習などでお世話になっている商店や事業所の方々にも学校内での活動の様子を見ていただき、本校にとって松商デパートは、地域に貢献できる職業人となるための貴重な機会であると捉えています。本校が百三十周年、百五十周年、二百周年を迎える時も、この松商デパートは地域と繋がりがながら発展していくものと信じています。

先日愛媛県から、「100万人の愛顔に会いたい」キャンペーン(2060未来へのchallenge)が発表されました。1985年に150万人を超えていた愛媛県の人口は、2023年は129万人。このまま何も手を打たなければ、2060年には78万人になると推計されています。この危機を乗り越えるため、愛媛県はこのキャンペーンを展開し、2060年の県内の人口100万人確保を目指して様々な取組を行っているといわれています。各メディアを活用してこのキャンペーンを周知すること、

「オール愛媛」で人口減少問題に立ち向かっていく機運を高めていくということです。

スポーツの世界でも、競技人口の減少が深刻であり、その対策が急がれています。かつて「国民的スポーツ」と呼ばれていた野球も競技人口の減少が進んでいると聞きます。そのような状況の中、この人が動きました。

現在、アメリカのメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手は、およそ2万校ある国内すべての小学校に、左利き用と右利き用の「大谷グローブ」を贈り、日本中の子どもたちに「野球しようぜ」とのメッセージを発信しました。これまでボールやグローブに触れる機会が無かった子どもたちにも興味を持って野球に取り組みでほしい、何よりも子どもたちが野球を好きになり、全国各地の校庭で笑顔いっぱいになり、キャッチボールを楽しんでほしいと望んでいることだと思っています。「好き」は大きな力になります。十数年後、子どもたちが大谷翔平選手のように活躍する選手になるかもしれません。

本校は地域と密接に連携しながら教育活動を展開し、数多くの卒業生を送り出し、歴史と伝統を紡いできました。私たちの大好きな愛媛県が100万人の愛顔溢れる地域であり続けるために、

創立120周年 記念招待試合



■メンバー表

1	篠崎 貴仁	3年
2	楠岡 晴陽	3年
3	林 颯太	2年
4	藤岡 真生	3年
5	才川 琥桜	3年
6	神原 友河	3年
7	大垣 奏真	2年
8	清家 優大	3年
9	片上 弦大	2年

■ 第1試合

松山商	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
日大三	4	0	0	0	0	1	3	1	X	9

■ 第2試合

日大三	3	0	0	0	0	0	0	2	1	6
松山商	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2

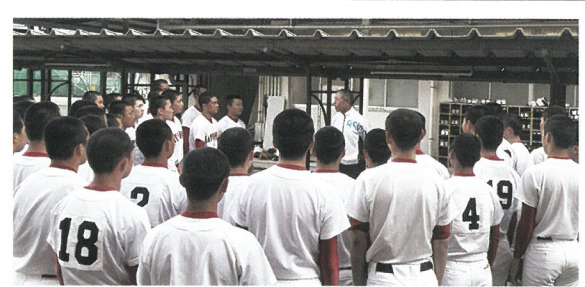
「ベストなタイミング」
野球部長 青野純士

令和三年度本校120周年記念行事として行う予定であった記念招待試合。コロナウイルス感染症の拡大により1年延期をして、大倉山監督率いる日本大

学第三高等学校をお招きしこの度実施した。現在、ロサンゼルス・ドジャースに所属し、メジャーリーグで大活躍している大谷翔平選手が、2012年高校生の時出場した「第25回IBAF U18世界野球選手権」日本代表チームの指揮をとったのが小倉監督である。当時、小倉監督は花巻東高校の佐々木洋監督に「大谷選手の選出を予定している。打者・投手両方で起用する」と連絡したという。大谷選手の「二刀流」が世間で認められるようになる前に、小倉監督はそれを国際大会で実行した先駆者といえる。また、本校の大野康哉監督がその際コーチとしてチームに帯同し韓国で試合を繰り広げた縁もある。このような巡りあわせの中、小倉監督が退任される直前というタイミングで試合ができたことはまさに奇跡であった。

雨の予報で天気に不安がある中、試合前日からは快晴となり2試合を実施できた。野球部OB会松岡彰彦会長、元監督の中矢信行さん、窪田欣也さん、澤田勝彦さん、白石勇二さんなど関係の多くの方々に支えていただいたおかげと感謝している。日々の練習の中でできていると思っていたことが試合ではできなかったり、自分たちのできていないことを日大三高の選手は徹底して行っていたりと、自分の力を最大限発揮することの難しさを思い知った。日大三高と松商の力量の差もあったが、自分のチームの野球スタイルを理解し、全員で勝ちにこだわって取り組む姿勢の差を強く感じた。小倉監督からは「松山商業には本当に甲子園に出てほしい。大好きな監督の下で大好きな野球をのびのびと悔いのないようにしてほしい」とのお言葉をいただいた。この招待試合を「イベント」として終わらせるのではなくチームの強化を進めさせる「きっかけ」としてこれらの練習に励みたい。

試合を終えて
野球部主将 楠岡晴陽さん



松商生・全国へ!!

科学部 令和6年度 全国高等学校総合文化祭(岐阜大会) 自然科学部門出場決定!

「タデアイの葉を用いた赤色溶液作成条件」
村上大尊さん 真鍋友輔さん 大坂一真さん

①研究を始めたきっかけ
先輩たちが赤い藍染めを作る研究をしている姿を見て、自分たちもやってみたく興味を持った。

②研究で大変だったこと
タデアイの葉っぱから赤色や青色になる原理を理解すること、授業では全く使わない用具であるマイクロピペットや電子天秤の扱い方を覚えることが大変だった。

③今後の抱負
自分たちが作成した赤色の色素を布に定着させ染められるようにする。

